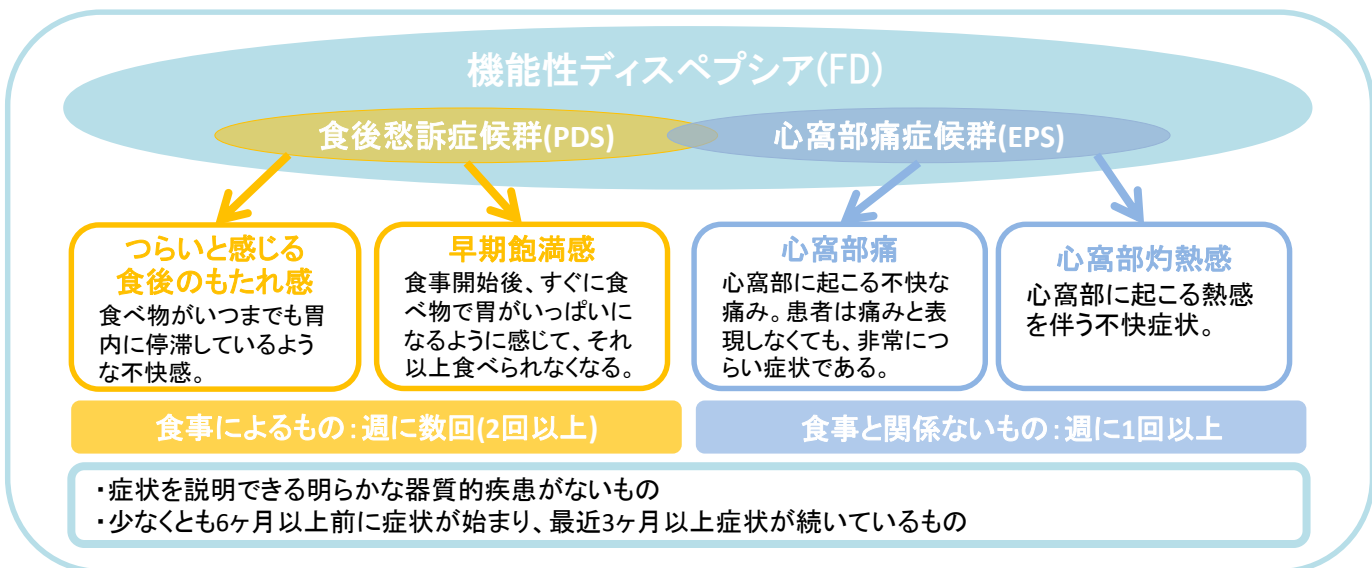


★機能性ディスペプシアとアコファイドについて★

Q1、機能性ディスペプシア(functional dyspepsia)とはどのようなものですか？

- A1、 機能性ディスペプシア(以下FD)は、心窩部の痛みや灼熱感、食後のもたれ感や食事の飽満感、悪心、嘔吐など上腹部の愁訴が主な症状です。そして診断の拠りどころになるのが、機能性消化管障害の国際的診断基準であるROMEⅢ分類です。FDの診療・診断においては、胃内視鏡検査などで器質的疾患を否定することが重要です。疾患概念を図に示します。



Q2、どのように治療していくのでしょうか？

- A2、 FD患者の予後は、決して悪くはありませんが、長期間罹患している例もあり、日常生活は大きく損なわれることが知られています。したがって、自覚症状の軽減と消失、QOLの向上、病態そのものの改善が治療目標となります。そのためにはまず生活習慣の見直し、特に食事と睡眠の改善が必要です。そして生活習慣を是正しながら、薬物療法を併用していくことになります。

Q3、薬物療法で使われる薬と、アコファイドについて教えてください。

- A3、 FDの薬物療法では、消化管運動賦活薬、酸分泌抑制薬を中心に、さまざまな薬剤が使われます。それでも症状が改善しない場合は、抗不安薬などが使われることもあります。また、ピロリ菌に感染しているFD患者に除菌療法を行うと、症状の改善が認められる症例もあります。そして2013年6月、世界で初めてFD治療薬として、アコファイドが発売されました。アコファイドは、消化管運動に重要な役割を果たす神経伝達物質アセチルコリンの分解酵素である末梢のアセチルコリンエステラーゼを阻害することにより、胃運動の低下及び胃からの食物排出遅延を改善させます。FDの自覚症状のうち、食後膨満感、上腹部膨満感、早期満腹感に対する改善効果が認められています。

《FD治療の主な薬物療法》

	分類	当院採用薬
消化管運動賦活薬	Achエステラーゼ阻害薬	アコファイド(100)
	ドパミン受容体拮抗薬	プリンペラン(5)
	セロトニン受容体作動薬	ガスモチン(5)
酸分泌抑制薬	プロトンポンプ阻害薬	パリエット(10)
		ネキシウム(20)
		タケブロンOD(15)
	H2受容体拮抗薬	ファモチジンD(20)
	漢方薬	六君子湯
抗不安薬	ベンゾジアゼピン系	コンスタン(0.4)
		デバス(0.5)
	ドパミン受容体拮抗薬	ドグマチール(50)
	H. pylori除菌療法	ランサップ
		(薬剤部 荻尾)